

## 文化・芸術

### 「婦人像」

1936年ごろ、インク、紙  
38・4枚×25・2枚（個人蔵）

松本竣介（1912～48年）

1920年代、最新のファッションをまとった若者文化としてのモボ・モガ（モダンボーイ、モダンガール）が流行しました。続く30年代、昭和の時代に入ると、職業をもった女性の社会進出が進み、モダンガールは、流行から社会にとっての大切な存在になっていきました。

一方、エコール・ド・パリの美術界で有名となり、凱旋（がいせん）帰国した藤田嗣治（ふじたしじ）をはじめ、すでに気鋭の画家として知られた東郷青児、小磯良平、猪熊弦一郎の作品からは「昭和モダン」の多彩な女性の姿を見ることができます。

松本竣介もまた、「昭和モダン」の女性を描いています。今回、作品とともに展示している彼の手作りのスクラップブックには、映画女優などの写真が数多く集められています。竣介は、モデルを生するだけではなく、こうした写真のイメージからもヒントを得ていたのではないかとおもわれます。

（田中）

### 《名画の扉》

大川美術館企画展  
「松本竣介《街》と昭和モダン展」から

